

製品名: PRAS40 (リン酸化 Thr246) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05303**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	40kDa

抗原情報

遺伝子名	AKT1S1
別名	AKT1S1; PRAS40; Proline-rich AKT1 substrate 1; 40 kDa proline-rich AKT substrate
遺伝子 ID	84335.0
SwissProt ID	Q96B36
免疫原	抗血清は、Thr246 のリン酸化部位周辺のヒト Akt1 S1 由来の合成ペプチドに対して産生された。 アミノ酸範囲: 207-256

背景

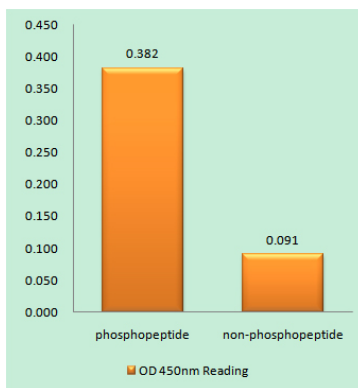
AKT1S1 は、AKT (MIM 164730) のプロリンに富む基質であり、リン酸化されると 14-3-3 タンパク質 (YWHAH、MIM 113508 参

照) に結合する (Kovacina et al., 2003 [PubMed 12524439])。 [OMIM 提供、2008 年 3 月]、機能: ホスファチジルイノシトール 3 キナーゼ (PI3K) -AKT1 生存シグナル伝達において重要な役割を果たす可能性がある。 AKT1 リン酸化の基質であるが、 AKT1 非依存的なメカニズムによっても活性化される可能性がある。 生存シグナル伝達経路におけるその役割は、酸化ストレスによって調節される可能性がある。 神経成長因子を介した神経保護にも関与している可能性がある。 ,細胞内局在: 脳の細胞質分画に存在する。 ,サブユニット: リン酸化型は 14-3-3 と相互作用する。 ,組織特異性: 広く発現しており、肝臓と心臓で最も高い発現レベルを示す。 癌細胞株 (例: A549、HeLa) では、正常細胞株 (例: HEK293) よりも高い発現レベルを示す。 ,

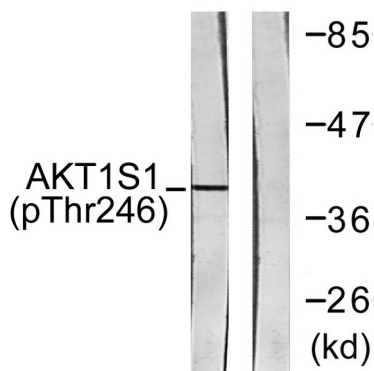
研究分野

細胞生物学

画像データ



Akt1 S1 (リン酸化 Thr246) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



PDGF 50 ng/ml 30 分処理した HepG2 細胞ライセートの Akt1 S1 (リン酸化 Thr246) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。